



2025年2月12日

各位

会社名 株式会社ジャパンディスプレイ  
代表者名 代表執行役会長 CEO スコット キャロン  
(コード番号 6740 東証プライム)  
問合せ先 執行役員 CFO 平林 健  
(TEL. 03-6732-8100)

**茂原工場でのパネル生産終了及び同工場の AI データセンター化、  
並びに石川工場への生産集約及び MULTI-FAB 化のお知らせ**

当社は、本日開催の取締役会において、2026年3月を目途に当社茂原工場（千葉県茂原市）での生産を終了することを決議いたしましたので、お知らせいたします。同工場は、売却を主眼とする AI データセンターとしての活用を見込んでいます。また、今後の当社の国内生産を石川工場（石川県能美郡）に集約いたします。石川工場は、G4.5+G6 高付加価値ディスプレイ、センサー、先端半導体パッケージングの同時生産を行う MULTI-FAB 工場として、柔軟性、生産性、及びコスト競争力が極めて高く、幅広い顧客に対応可能な生産体制を構築いたします。

1. 茂原工場での生産終了並びに石川工場への生産集約の背景と目的

厳しい過当競争が続くディスプレイ産業への依存による慢性的な赤字体質から脱却するためには、これまで以上に大きな戦略的転換が必要となっています。そのため、当社はさらなる改革によりディスプレイ事業の早急な黒字化を図ると同時に、社会が求める高成長分野であるセンサー&ソリューション及び先端半導体パッケージングへの参入を図り、ディスプレイ専業メーカーから「BEYOND DISPLAY」への進化を遂げるための新たな戦略を推進しております。

当社は、「BEYOND DISPLAY」戦略の実現のため、経営資源の最適化に向けた議論と検討を重ねてまいりました。その結果、ディスプレイ事業についてはアセットライト化と生産効率の大幅な向上が早期の収益改善に向けて不可欠であると判断し、2026年3月を目途に固定費負担の大きい茂原工場でのパネル生産を終了し、固定費がより小さく、先端半導体パッケージングとセンサーの生産において効率が良い石川工場に生産機能を集約することを決定いたしました。

(茂原工場について)

茂原工場の人員につきましては、協業先と実行計画についての協議及び業界再編に向けた取り組みを進めている最中であり、決定次第お知らせいたします。工場資産は、現在、AI データセンターのニーズのある多数の企業と資産売却を主眼に交渉を進めており、AI データセンターとしての活用を推進いたします。

茂原工場で生産中の車載用を中心とするパネルは、お客様と協議のうえ作り溜めや石川工場への生産移管を行うほか、当社の設計したパネルをファウンドリーパートナーから調達することも含め、供給責任を果たしてまいります。同工場にて生産している OLED ディスプレイは、生産終了に伴い自社生産を中断する一方、現在、当社の eLEAP のファブレス事業展開とグローバルエコシステムの構築に向けて eLEAP パネルの委託生産先となるファウンドリーパートナーと協議を進めています。

(石川工場について)

生産を集約する石川工場（基板サイズ G4.5）は、茂原工場（同 G6）と比較して固定費が約4分の1と小さいことに加え、G4.5 基板サイズは今後当社が注力する高収益が見込める先端半導体パッケージングやセンサーの生産に有利であるといった大きな利点を持ちます。石川工場ではこれら利点を活かしつつ、競争優位性の高い製品に特化することで、収益改善を図ってまいります。

さらに、石川工場に茂原工場の G6 液晶セル工程の設備を移設し、ファウンドリーパートナーから G6 基板の調達を行うことを予定しており、石川工場を「G4.5+G6」の工場に転換させ、MULTI-FAB 工場として G4.5+G6 高付加価値ディスプレイ、センサー、先端半導体パッケージングの同時生産を可能とし、柔軟性、生産性、及びコスト競争力の極めて高い、幅広い顧客に対応できる生産体制を構築いたします。

石川工場における先端半導体パッケージング生産については、本日資本業務提携を発表した株式会社テック・エクステンション（「TEX」、東京都）及び PanelSemi Corporation（台湾）の同分野における知見と技術と、当社の有する高密度配線技術と薄膜・ガラス加工技術を融合し、これまでにない高性能かつコスト競争力の高い半導体パッケージングをグローバル顧客に提供してまいります。

## 2. 茂原工場の概要

- ① 名 称： 茂原工場（第6世代製造ライン）
- ② 所 在 地： 千葉県茂原市早野 3300
- ③ 事業内容： 液晶及び OLED ディスプレイの開発、設計、生産
- ④ 従業員数： 1,323 名（2025 年 1 月 31 日現在）

## 3. 今後の見通し

今後、茂原工場での生産終了に伴い発生する費用や損失、またはAIデータセンター化による譲渡損益等が発生した場合には、当該発生額を特別損失又は特別利益に計上することとなりますが、その時期及び金額は精査のうえ、判明次第お知らせいたします。

なお、同工場での生産終了により、現時点の当社試算では最大で年間約 250 億円の固定費削減が見込まれます。

当社は、今般の経営資源の最適化による大規模な変革を実現することで、早期の業績改善と持続的な成長に向けて全力で取り組んでまいります。

以 上

本資料に記載の情報のうち、当社の予測、予想、計画その他の将来に関する記述は、当社が発表日現在で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。